

2020年に向けた 中央区の取組

～国内外から多くの人々が集い、
誰もがあこがれるまちを目指して～

2015年3月

中央区



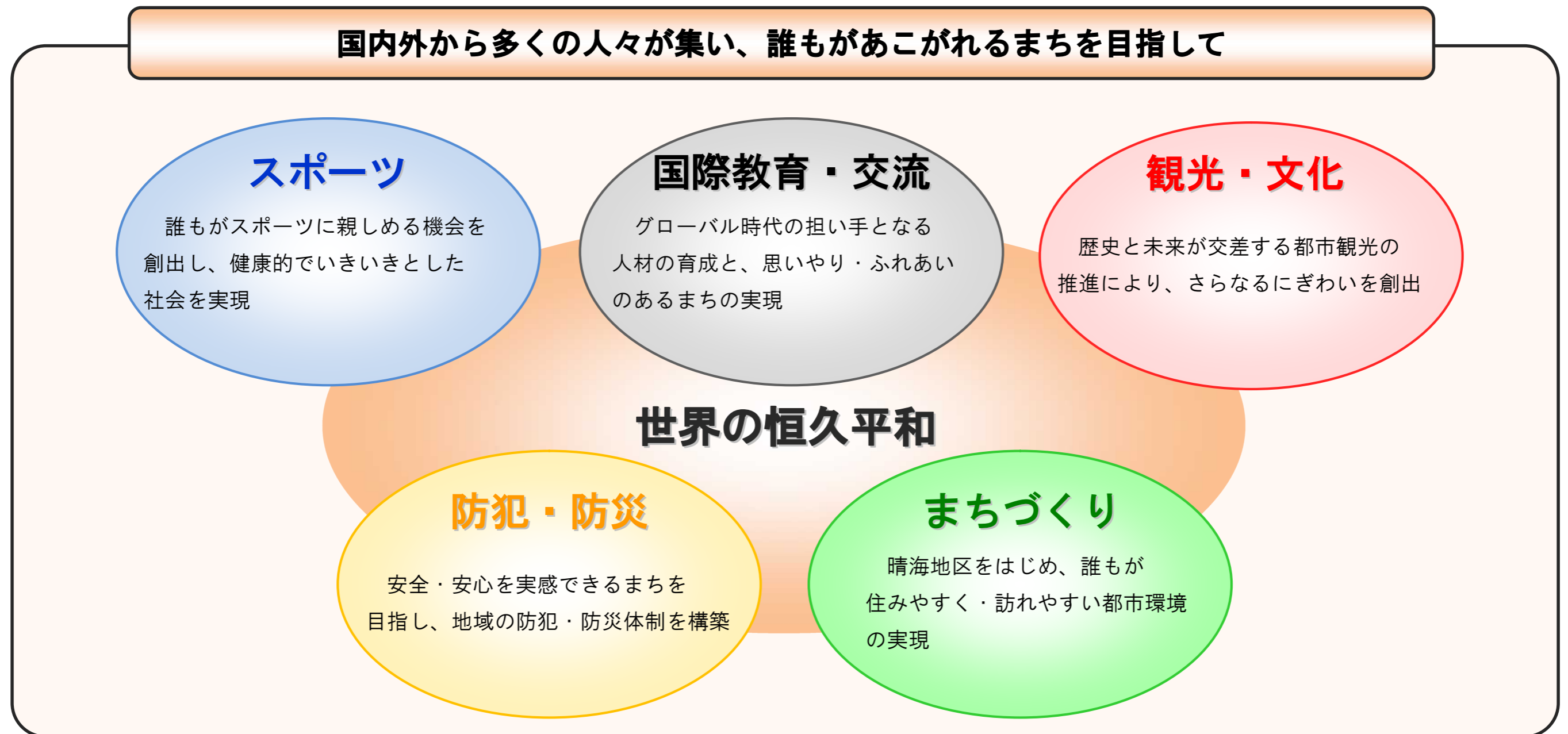
CHUO
CITY

2020 年に向けた中央区の取組

世界最大のスポーツと平和の祭典、オリンピック・パラリンピック競技大会が 2020 年に東京で開催されます。

オリンピック・パラリンピック開催都市は、世界平和を推進する重要な役割を担っております。本区では、平和をあらゆる施策の根幹に据え、「教育の中央区」にふさわしい国際教育や平和教育に一層力を入れるとともに、区民の皆さまはもとより区を訪れるすべての人々に平和の尊さを積極的に訴えるなど、「世界の恒久平和」実現の先頭に立ってまいります。

また、大会の中心となる選手村を擁する本区は、大会の成功を全力で支援するとともに将来を見据えた区内全体の良好なまちづくりを進めるため、江戸以来の文化や伝統の積極的な発信等、以下の 5 つの分野の取組を総合的に推進し、「国内外から多くの人々が集い、誰もがあこがれるまち」を目指して、『中央区の黄金時代』を築いてまいります。



スポーツ

—誰もがスポーツに親しめる機会を創出し、健康的でいきいきとした社会を実現—

① 2020年に向けた取組の方向性

- ▶ スポーツ振興に関する施策を中・長期的な視点から体系的・戦略的に推進するための方針を定めて展開していく。
- ▶ 大会関連事業やイベント等の実施により、大会開催の気運醸成を図り、区民のスポーツ参加意識等を高めていく。
- ▶ 子どもの心身の健全な育成を図るため、学校でのスポーツ活動やオリンピック・パラリンピック教育を推進していく。
- ▶ 障害者スポーツへの関心を高め、普及促進を図っていく。
- ▶ 子どもから大人まで日頃から気軽に参加できる、地域でのスポーツ活動の推進や環境づくりを行っていく。

【主な推進事業】

- ・スポーツ推進計画の策定・実施
- ・子どもの得意スポーツ発見事業
- ・親子で参加するスポーツ教室
- ・オリンピック・パラリンピック教育の推進（オリンピック・パラリンピック教育実践校等）
- ・障害者スポーツ普及・促進の強化
- ・日頃からの健康づくりの実施（歩数計を活用した生活習慣の改善、高齢者の介護予防・健康づくりの取組強化等）

【関係機関との連携等】

- ・中央区オリンピック・パラリンピック区民会議（仮称）の設立
- ・スポーツ事業における地域スポーツクラブ、中央区体育協会、大会組織委員会との連携
- ・都の情報提供等による晴海運動場代替施設の確保や選手村スポーツ施設のレガシー化



② 2020年東京大会時の本区の姿

- ▶ 区民のスポーツ参加意識の高まりから、大会に関連した事業はもとより、さまざまなスポーツ関連事業が活発に行われている。
- ▶ オリンピック・パラリンピック教育の浸透により、子どもたちの心身の調和の取れた発達が進んでいる。
- ▶ 障害者スポーツの普及により、パラリンピック競技大会の気運醸成が図られている。
- ▶ 区と地域スポーツクラブとの協働や運動施設の整備により、身近にスポーツを楽しむ環境が拡充されている。

③ 大会後のレガシー

- ▶ 区民のスポーツ参加意識の向上
- ▶ 地域スポーツクラブとの協働等スポーツ関連事業の活性化
- ▶ 心身の調和のとれた子どもたちの健全な成長をはじめ、日頃のスポーツ活動を通じたあらゆる世代の方々の健康増進
- ▶ 障害の有無によって分け隔てられることなく、誰でも身近にスポーツを楽しめる環境の整備
- ▶ 400mトラック等の選手村スポーツ施設の活用や、晴海の水辺のプロムナードを活用したジョギングコース等の整備

国際教育・交流

ーグローバル時代の担い手となる人材の育成と、思いやり・ふれあいのあるまちの実現ー

① 2020年に向けた取組の方向性

- ▶ 小・中学校における国際教育等を推進し、グローバル時代の担い手となる人材の育成を図っていく。
- ▶ 中央区版「一校一国運動」等のオリンピック・パラリンピック教育を通じて、子どもたちの国際的な視野の拡大や交流活動を推進していく。
- ▶ 地域の国際交流事業の拡充やボランティア活動の推進により、あらゆる世代の方々の国際感覚を養っていく。
- ▶ 区民一人ひとりが障害のある方への理解を深める取組を推進していく。

【主な推進事業】

- ・ オリンピック・パラリンピック教育の推進（中央区版「一校一国運動」の実施等）
- ・ 先駆的な国際教育の推進（常盤小学校）
- ・ ボランティアの育成に向けた講演会の開催
- ・ 国際交流事業の推進（国際交流のつどい等各種イベントの実施）
- ・ 外国語による「おもてなし」の強化（区民カレッジでの英会話教室等）
- ・ 心のバリアフリーの推進（障害者サポートマニュアルの作成・配布、ヘルプカード等の普及・啓発、手話講習会の充実）

【関係機関との連携等】

- ・ 中央区オリンピック・パラリンピック区民会議（仮称）の設立（ボランティア検討部会の設置を予定）
- ・ 都のオリンピック・パラリンピック教育との連携
- ・ 地域の交流事業やボランティア育成における大会組織委員会、都及び中央区文化・国際交流振興協会等との連携



② 2020年東京大会時の本区の姿

- ▶ 子どもたちが英語を使ったコミュニケーション能力や、国際的視野に立った考え方を身につけている。
- ▶ 中央区版「一校一国運動」等の取組により、友好的な国際交流関係につながる素地が作られている。
- ▶ あらゆる世代の方々が区内のボランティア活動や国際交流事業等を通じて、外国人と活発に交流している。
- ▶ パラリンピック競技大会を中心に障害者理解が深まり、区民一人ひとりの心のバリアフリーが達成されている。

③ 大会後のレガシー

- ▶ 子どもたちの国際性を育む教育環境の充実
- ▶ 中央区版「一校一国運動」等の取組の継続による子どもたちの国際理解の定着
- ▶ ボランティア活動や国際交流事業の活性化によるあらゆる世代の方々の国際意識の向上
- ▶ 心のバリアフリーが浸透し、すべての人に対して思いやりやふれあいのあふれるまちが実現

観光・文化

—歴史と未来が交差する都市観光の推進により、さらなるにぎわいを創出—

① 2020年に向けた取組の方向性

- 築地や銀座、日本橋、月島など区内全体のさまざまなイベント等の取組を通じて、本区の伝統や文化の魅力をより一層発信していく。
- 本区の観光拠点の整備や観光情報発信ツールの拡充等により、観光情報の発信体制を強化していく。
- 観光ボランティアの育成・活用、公共サインの多言語対応、フリーWi-Fi等の通信インフラの拡充等、来訪者の受入体制の整備に向けた取組を地域と一体となって進めていく。

【主な推進事業】

- ・ 商店街におけるフリーWi-Fi整備の促進
- ・ 観光拠点の整備や観光情報発信に向けたコンテンツづくり
- ・ 観光ガイドマップや観光協会Webサイトのリニューアル及び活用促進
- ・ まちかど展示館の活用・ネットワーク化
- ・ 近代建築物調査結果のまち歩き等への活用
- ・ ボランティアの育成に向けた講演会の開催
- ・ 生涯学習サポーターに対する「まち案内ガイドのための外国語研修」の実施
- ・ 中央区観光協会としての観光客誘致に向けた取組の推進（検討組織の設置）
- ・ 外国語による「おもてなし」の強化（区民カレッジでの英会話教室等）

【関係機関との連携等】

- ・ 中央区オリンピック・パラリンピック区民会議（仮称）の設立
（観光・文化検討部会、ボランティア検討部会及びサイン検討部会の設置を予定）
- ・ 地域の観光事業における大会組織委員会、都、中央区観光協会、中央区文化・国際交流振興協会等との連携



② 2020年東京大会時の本区の姿

- 本区を訪れる全ての観光客に、さまざまなイベント等の取組を通じて、本区の伝統や文化の魅力を発信している。
- 本区の観光拠点を中心として、各観光案内施設とのネットワーク化等により、来訪者にわかりやすい情報を提供している。
- 大会組織委員会の大会ボランティアや都の都市ボランティア等と区内のボランティアが密接に連携した活動を展開している。
- 多言語対応やフリーWi-Fi等、言語や通信のインフラが整備され、来訪者の受入体制が整っている。

③ 大会後のレガシー

- 区内全域における伝統や文化の魅力あふれるイベント等の取組の定着
- 観光拠点の整備や各観光案内施設との連携による、来訪者に最適な観光情報を発信する体制の確立
- 都市観光の推進に資するボランティア活動の定着
- 本区のおもてなしの心にふれたリピーターの増加によるさらなるにぎわいの創出
- 多言語対応やフリーWi-Fi等の整備拡充エリアのさらなる拡大による快適な都市空間の実現

防犯・防災

—安全・安心を実感できるまちを目指し、地域の防犯・防災体制を構築—

① 2020年に向けた取組の方向性

- 区民への防犯知識の普及・啓発を図り、一人ひとりの安全・安心の意識向上に向けた取組を推進していく。
- 地域の防犯活動への支援や小学校通学路への防犯カメラの整備等を通じて、地域防犯の取組を拡充させていく。
- 防災備蓄の推進、防災区民組織への支援、国内外来訪者向けの帰宅困難者対策の推進等により、地域防災力のさらなる向上に向けた取組を進めていく。
- 選手村周辺の晴海エリアのセキュリティ計画について、情報収集を図るとともに関係機関や地元への対応を行っていく。

【主な推進事業】

- ・ 小学校通学路への防犯カメラの整備推進
- ・ 地域団体に対する防犯設備設置費助成の充実
- ・ 防災区民組織に対する防災資器材供与の充実
- ・ 防災対策優良マンション認定制度の実施
- ・ 帰宅困難者対策の推進（「帰宅困難者支援マップ（仮称）」の作成等）
- ・ 住宅・建築物の耐震化助成の推進
- ・ 災害時対応型公衆便所の整備推進

【関係機関との連携等】

- ・ 中央区オリンピック・パラリンピック区民会議（仮称）の設立
- ・ 防犯活動における警察、防犯協会及び各町会等との連携
- ・ 防災活動における消防、防災区民組織、防災拠点運営委員会、民間事業者等との連携
- ・ 安全・安心な大会運営に向けた大会組織委員会、都、警察等との連携



地域の防犯活動



総合防災訓練

② 2020年東京大会時の本区の姿

- 区民一人ひとりの防犯意識が高まり、誰もが安全・安心のまちづくりの担い手となっている。
- 防犯活動の強化や防犯設備整備の拡充により、地域全体で犯罪を未然に防ぐ体制が構築されている。
- 防災区民組織への支援、帰宅困難者対策の推進、建物の耐震化の促進等を通じて、ソフト・ハード両面での防災対策が図られ、地域防災体制が強化されている。
- テストイベント等を通じて中央区が安全・安心なまちであることが世界へ発信され、万全な体制が築かれている。

③ 大会後のレガシー

- 区民一人ひとりの防犯意識の向上
- 地域の連帯強化や防犯設備の配備による区内全域における防犯体制の確立
- ソフト・ハード両面における強固な地域防災体制の確立
- 誰もが治安の良さや生活の安心を実感できる「世界一安全・安心なまち中央区」の実現

まちづくり

—晴海地区をはじめ、誰もが住みやすく・訪れやすい都市環境の実現—

① 2020年に向けた取組の方向性

- 大会後の将来を見据えた晴海地区のまちづくりを進めていくため、公共・公益施設の整備等に向けた取組を推進していく。
- 都との連携によるBRTの整備促進や地下鉄新規路線の実現に向けた取組を進め、公共交通機関の拡充を図っていく。
- 街路灯のLED化やコミュニティサイクルの導入等、環境にやさしいスマートシティの実現に向けた取組を推進していく。
- 誰もが快適に移動できるよう、道路や公共施設のバリアフリー化及び公共サインの多言語対応の取組を推進していく。

【主な推進事業】

- ・晴海地区の将来を見据えたまちづくりの検討・推進
(BRTの先行運行・ルート協議・検討、地下鉄新規路線の導入に向けた検討、晴海地区将来ビジョン推進会議(仮称)の設置・運営)
- ・環境にやさしい「スマートシティ」の実現に向けた取組(コミュニティサイクル導入に向けた実証実験、街路灯LED化の推進強化)
- ・歩行・交通環境の整備(電線共同溝(電線地中化)の推進、歩道拡幅、民間事業者を活用した駐輪場の整備、放置自転車の対策強化)

【関係機関との連携等】

- ・中央区オリンピック・パラリンピック区民会議(仮称)の設立(サイン検討部会の設置を予定)
- ・BRTの先行運行・ルート、地下鉄新規路線導入に向けた都との緊密な連携
- ・選手村整備に向けた都や大会組織委員会との連携
- ・豊洲・晴海開発整備計画(都)における晴海地区全体改定(平成27年度目途)に向けた都や地元との協議・連携



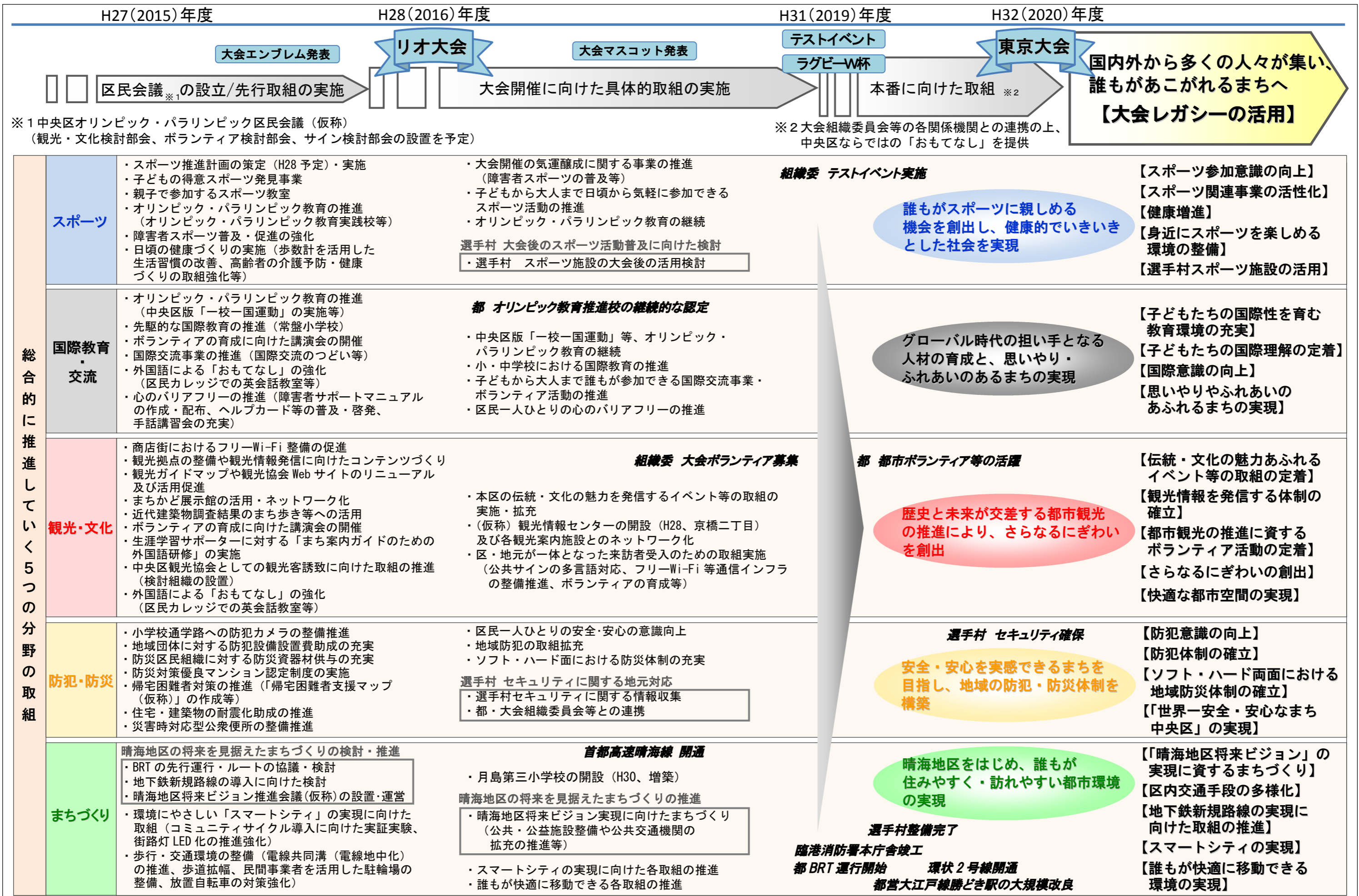
② 2020年東京大会時の本区の姿

- 最先端技術を活用した選手村のある晴海地区が世界から注目を浴びている。
- 都心部と臨海部を結ぶBRTが開通し、選手村をはじめ競技会場等への利便性が向上している。
- 街路灯のLED化整備が進むとともに、コミュニティサイクルの運用開始など環境に配慮された取組が実現している。
- 選手村や来訪者が集中するエリアを中心に、道路や公共施設のバリアフリー化や公共サインの多言語対応が図られている。

③ 大会後のレガシー

- 選手村の後利用を含めた「晴海地区将来ビジョン」の実現に資する晴海地区のまちづくり
- BRTの開通をはじめ区内全域の交通手段の多様化
- 地下鉄新規路線の実現に向けた取組の推進
- 環境に配慮した「中央区エコタウン構想」によるスマートシティの実現
- 区内全域において道路や公共施設のバリアフリー化や公共サインの多言語対応が進み、誰もが快適に移動できる環境の実現

2020年に向けた中央区の取組の進め方



2020年に向けた中央区の取組

平成27年3月

刊行物登録番号
26-106

編集・発行 中央区企画部オリンピック・パラリンピック調整担当課
東京都中央区築地一丁目1番1号
電話（03）3546-5226

印刷 みずほ総合研究所株式会社
東京都千代田区内幸町一丁目2番1号
電話（03）3591-8746